

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立政田小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒704-8165
岡山市東区政津850番地
E-mail masadas@city-okayama.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 109 名 女子 130 名 合計 239 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、安心・安全で、魅力や活力のある持続可能な社会づくりに向けて、地域の特性を活かし、実践する担い手（子ども）を育てるために、様々な人や団体・組織等と連携・協働し、ESDを推進する。ESDの実践を通して、批判的に考える力、多面的、総合的に考える力、つながりを尊重する態度、未来像を予測して計画を立てる力の育成を目標とした。

具体的には、「ふるさと政田を受けつぎ 守り 未来へつなぐプロジェクト」を柱に、①地域に係わる学習、②福祉に係わる学習、③環境に係わる学習、④国際交流に係わる学習を行った。

① 地域に係わる学習

学区には、江戸時代の干拓事業での先人の偉業を伝えるものやほかの地域にはない自慢できるものがあることを知り、調べたり地域の人の話を聞いたりして、政田のよいところをパンフレットなどにまとめる活動を通して、地域に愛着を持つことができるようにする。

② 福祉に係わる学習

公共の施設を見学したり、点字や手話、盲導犬など体の不自由な人のために役立っているものを調べたり、車いすやアイマスクなどの体験をしたりすることで、不便さやそれを解消するための工夫に気づき、もっとみんながくらしやすい町にする方法を考えることができるようにする。

③ 環境に係わる学習

政田の米作りを実際に体験することを通して、米と水の密接なかかわりに気づき、水環境を守るための具体的な方法を調べたり、実行したりできるようにする。

④ 国際交流に係わる学習

同じ地球上に生きている「人」を理解し合い、できることで力を分かち合うために、世界で起こっている様々な問題を調べることを通して、問題の解決に向けて自分たちにできることを考え実行することができるようにする。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

福祉、環境、国際理解に関係した図書資料 「ハート・オブ・ゴールド」が作成した資料

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

岡山市 ESD 推進条例をもとに、学校教育基本計画に次のように定めている。 安心・安全で、魅力や活力のある持続可能な社会づくりに向けて、地域の特性を活かし、実践する担い手（子ども）を育てるために、様々な人や団体・組織等と連携・協働し、ESD を推進する。 指導内容については、生活科、総合的な学習の時間の全体計画に具体的に定めている。活動を通して育みたい資質や能力についても具体化し、評価や指導方法の工夫改善に努めることができるようにしている。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

年間指導計画をもとに、転勤してきた人でもそれをもとに実践できるようにしている。また、児童相互も、3学期に1年間の学習してきた足跡や成果をまとめ、それを一学年下の学年に伝える活動を行っている。また、校内に随時学習の足跡を掲示したり、他学年に協力を呼びかけるような活動ではポスターやプリントを作成したり全校朝礼で呼びかけたりしながら学校全体に広げて取り組むようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

保護者や地域との連帯強化の項目については、教職員アンケート、保護者アンケート共に肯定的な評価である。地域の方にボランティアをお願いしたり、行事に招待したりして、学校に対する意見をいただいている。地域とのつながりを深めた活動を企画するとともに、学校の様子を分かりやすく、保護者・地域に発信していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

3年生では、自分たちが調べた政田の自慢をたくさんの人に知ってもらうために、政田の自慢をパンフレットにまとめて発信した。また、5年生では、生活排水をきれいにするための取組として、アクリルたわしを制作し、家庭や地域の方に配布することにより呼びかけていく活動に広がっていった。それらの活動により、保護者や地域の方に取組や成果を知ってもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

地域に係わる学習では、政田民俗資料館、ファジアーノ岡山、地域の方々と連携した。福祉に係わる学習では、岡山市社会福祉協議会の方々と連携した。環境に係わる学習では、水田の提供者をはじめ、地域の政田学区老人クラブ、政田学区安全・安心ネットワークの方々と連携した。また、明和製紙原料株式会社、岡山県環境学習センターアスエコの方々と連携し身近な環境問題について深めることができた。国際交流に係わる学習では、ハート・オブ・ゴールドから講師を招き、カンボジアへの支援活動につなげることができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

29年度は、国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワークの形成はしていない。30年度は、同じ中学校区内で、意見交換をしたり、活動を紹介し合ったりしながら、情報交換を積極的にしていくようにしたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

ユネスコスクールの活動を継続してきたことで、この活動が児童のみならず保護者や地域に定着しつつあると感じられる。子ども達は学年に応じた活動をしているので、新しい気づきや新たな知識の獲得・行動の変容など様々な変化や成長が見られる。それぞれの学年の活動そのものは、前年度その学年がしていた内容と大筋は同じであるが、児童の実態やそのときの関係外部団体とのつながりや地域との連携に応じて改善、発展してきている。

（3）平成30年度の活動計画

地域に係わる学習では、学区の自慢としてテーマを設定する時に、昨年度と同じテーマばかりにならないように、子ども達の視野を広げる導入を工夫したい。

福祉に係わる学習では、書籍やインターネットによる調べ活動が多かったので、実際に学区に出かけて福祉環境の現状を確認することや、体の不自由な人と交流して、その人たちの思いや願いに触れる機会をもてるようにしたい。

環境に係わる学習では、学校の周りでは田んぼが減り宅地化している現状にも目を向けながら、米作りに欠かせない水に関連して、田んぼや用水の生き物についても調べることは身近な生き物から環境を見直すよい機会となった。今後も生き物の視点から環境を守ることへとつなげていく活動を取り入れたい。

国際交流に係わる学習では、ハート・オブ・ゴールドも講師に来ていただくことは、世界の現状を知るためにもこれからも継続していきたい。また、ハート・オブ・ゴールドだけに限らず、様々な支援団体と連携を図り、支援活動を広げていきたい。